



夏は日が長くて、冬は日が短いのはなぜ

地球がかたむいて、太陽の周りを回っている

地球は、北極と南極を結んだ地軸を回転の軸として、西から東へ、1日で1回転しています。これを地球の自転といいます。また、地球は太陽の周りを、1年に1回、決まった道すじを通過して公転しています。

地軸は、公転面に垂直ではなく、垂直な方向に対して23.4度かたむいています。つまり、地球は、少しかたむいた状態で自転しながら、太陽の周りを回っています。

地球がかたむいて、太陽の周りを回っているのだから、ある時期は、太陽に長い時間照らされ、また、ある時期は、太陽に照らされる時間が短くなるという現象が起こります。

夏は、長い時間、太陽に照らされるので、日が長くなり、冬は、太陽に照らされる時間が短いので、日が短くなります。

夏と冬で日の長さがちがうことや、地球に季節があることは、地球がかたむいて、太陽の周りを回っているからなのです。

地球がかたむいて回っていなかったら

もしも、地球がかたむいて回っていなかったとしたら、1年中、昼と夜の時間は同じになります。また、季節もなくなり、1年中、いつも同じ状態になっています。

(監修・村山 貢司)

